



ヒガンバナで始まる森の秋景色。鮮やかな赤色をたどって歩くと、鳥や虫のにぎやかな声が聞こえてきます。

「いささぎ」の繁る森へ  
 散策路を辿って花のき広場まで行く  
 と、左手に「権狐」の草稿碑があります。  
 「むかし、徳川様が世をお治めになつて  
 いられた頃に、中山に、小さなお城があつて、中山様と云うお殿さまが、少しの  
 家来と住んでいられた。その頃、中山  
 から少し離れた山の中に、権狐と云う狐  
 がいました。権狐は、一人ぼっちの小さな  
 狐で、いささぎの一ぱい繁った所に、洞を  
 作って、その中に住んでいました。」文中  
 の『いささぎ』というのはこの地域の方言  
 で、一般的にはヒサカキと言ひ、童話の森  
 にもたくさんあります。実際にキツネは  
 ヒサカキの繁るような森を好んで生息  
 します。ヒサカキを見つけて「ごん」の  
 住む洞を想像すると、森  
 の奥へと南吉童話の世界  
 が広がっていきます。



ヒサカキ  
MAP



Welcome to  
the autumn forest!

### 「童話の森」とは？

この森は、新美南吉の代表作『ごんぎつね』冒頭に、かつて中山様というお殿様が住むお城があったと描かれている「中山」の地にあります。新美南吉が作中で書いた植物や生き物が感じられる多様性のある森として楽しめるようにプロジェクチームが活動しています。



花のき広場の自然観察路入り口にある、ごんぎつね草稿碑と脇に植えられているヒサカキ。

# 童話の森だより

秋号  
2021

## 南吉を読む

『ごんぎつね』

新美南吉作



おひるがすぎると、ごんは、村の墓地へいって、六地藏さんのかげにかくれていました。いいお天気で、遠く向こうにはお城の屋根瓦が光っています。墓地には、ひがん花が、赤い布のようにさきつづいていました。

〔前略〕  
〔後略〕



ちいさなごんの贈り物BOXの「ごんぎつね」カフェ&ショップごんの贈り物ごんの贈り物オンラインにて販売中。

《作品解説》里山を舞台にした「ごんぎつね」には、昔は人々の暮らしの傍に見られた動物や植物がたくさん描かれています。彼岸花もそのひとつ。田んぼの畔や墓地に咲くことが多く、物語でも葬列の場面で登場します。死人花という別名もあり、物語では単に美しさを添えるだけでなく、結末の死を予感させる伏線の役割を担っています。



### ヒガンバナ (彼岸花、別名: 曼珠沙華) ヒガンバナ科ヒガンバナ属

9月の彼岸の頃、鮮やかな赤い花を咲かせるヒガンバナ。有毒のため、昔からモグラ・ネズミ避けに活用されてきました。花は赤色の他に白・ピンク・黄などもあります。観光名所となった「矢勝川堤」では、約300万本のヒガンバナが南吉の故郷の秋をいります。童話の森でもそっと秋の訪れを告げて咲いています。



ヒガンバナ  
MAP

### 森のたんけん隊



#### イヌマキしゅりけん

イヌマキの葉っぱでしゅりけんをつくりかた

1. イヌマキの葉を4マイ半分に折る



2. 3マイを順にはさんでかさねる



3. 4マイ目を1マイ目のわに通してひきしめる



できあがり



たくさんつって  
ニンジャごっこしよう!

イヌマキ  
MAP



童話の森プロジェクトほか  
矢勝川周辺情報を発信中!  
ローカルメディア「はんの木」  
<https://hannoki.org/>

